

魚賈ノ追書、大坂魚賈ノコト、泉堺ト攝ノ尼ヶ崎略シテ尼トノミモ云、前ニハ此ニ所ノミヲ舉グ、追考スルニ甚誤ケリ、大坂ノ西北隅ニ雜喉場ト稱ス、官許ノ魚市アリ、其行江戸ノ魚市ニ及ズト雖ドモ、又小行ナラズ、蓋堺市ニ出ス魚類、近海ニ漁スル所ナルベシ、此故ニ自ラ肉肥テ味美也、尼ヶ崎及ビザコバニ出スモノ、遠海ヨリ來ル故ニ味肉トモニ劣レリ、價モ大略堺魚ノ半價トス、江戸ハ本材木町字シテ新魚場、略シテ新場下云所ノ魚市ハ、相ノ三浦三崎金澤等近海ヨリ出ルヲ以テ魚美味、本船町及ビ小田原町ニ漕スハ、總房其他遠海ノ漁魚故ニ劣レリトス、江戸ハ漁村ヨリ、右ノ魚問屋ニ贈リ、問屋ヨリ仲買ト稱ス魚賈ニ分チ、仲買ヨリボテト云小賈ニ賣ル、賣テ後ニ直ヲ定メテ、仲買ヨリ問屋ニ價ヲ收ム。

大坂モ雜喉場問屋ヘ漁村ヨリ贈ル、問屋ニテハ一夫臺上ニ立チ、魚籃一つ宛ヲ捧ゲ、サアナンボト云、サアハ發語、ナンボハ何程ノ略也、此時大坂市中魚賈群集シ、口々所欲ノ價ヲ云、其中貴價ナル者ニ賣與ス、コレヲ市ヲ振ルト云、堺尼トモニ彼地ニ於テ此行ヲナス、故ニ大坂市中ヲ巡リ賣ル魚賈、多クハ江戸ニ云仲買ニ比スベキ者ナリ、又仲買ヨリ傳買シテ賣ル、小魚賈モ有之。

〔享保集成絲綸錄三十六〕寛保二戌年六月

覺

一ます 正月節より

一あゆ 四月節より

一かつほ 四月節より

一あゆ 四月節より

一さけ 九月節より

一あんかう 十一月節より

一生だら

十一月節より

一白魚

十一月節より

○略 中

右品々、貞享年中、元祿年中にも相觸候通心得、此書付之通來正月より商賣可仕候、初而出候節も、直段高く商賣仕間敷候、前方も相觸候通、獻上之品たりといふ共、各別高直ニ商賣仕間敷候、右之趣相背もの於有之は可爲曲事者也、